

市街地、里山から沖縄の豊かな自然まで、3つのロゲイニング

沖縄ロゲイニング 2月23日

ホールアース自然学校という民間の野外教育団体が、沖縄の分校でロゲイニングの開催希望を打診してきたのが2009年。奥武蔵ロゲイニングで大会開催実績のある田島利佳氏と、オリエンテーリング日本代表の松澤俊行氏が派遣され10月に派遣され、自然体験活動のプロである彼らにロゲイニングを教えた。それから3年以上の歳月が流れ、ロゲイニングは彼らの活動として、すっかり定着した。

現在、ホールアース自然学校沖縄校は、2010年以降、毎年那覇の首里城周辺での首里ロゲイニングを開催。名護でのロゲイニングは今年で4回目を数える。2011年3月には県の助成金を受け、石垣島での大会も開催した。世界遺産首里城の周囲には数々の史跡や見所がある。市街地のため、本格的なロゲイニングとは言い難いが、1:10000の正確な地形図を使った地図で、ナビゲーションスポーツの基本は押さえられている。

オリエンテーリングやロゲイニングを目的とする団体でない彼らが継続的にナビゲーションスポーツを開催し、ツールとして使いこなしている。ランニングの入門的なスポーツとしてジョギングがあるように、オリエンテーリングの普及にロゲイニングが重要なツールになりえる可能性を感じる。

ホールアース自然学校の努力もあって、那覇では、より本格的なロゲイニングに参加してみようという構造ができあがっている。4回目を数える今回の名護大会だが、本土のオリエンティア・ロゲイナーへの広報がほとんどない中で150人を超える参加者を集め、そのうち約7割が那覇からの参加であった。家族を連れた参加が大多数を占めているのが印象的だ。

4時間というコンパクトな競技時間のため、スタートも11時とゆっくりである。ゴール制限は15時で、16時の表彰時刻まで、ほとんどの家族が帰ることなく、体育館で時間をつぶす。そこ

には、南国の時間が流れていた。

行き会う参加者はもちろんだが、近所のおばさんという感じの人や、近くの学校でクラブ活動をしていた女の子たちからも、「がんばってください!」という声がかかった。地方ならではの楽しさだ。

過去に1回招待を受けた私だが、今回は田島利佳と混合に出場した。ポイント数があまり多くなかったので、4時間で全部取ることを狙ったが、途中のスピードが伸びず、結果として、総計1000点のところを979点。それでも、表彰式で点数を聞かされた家族組から、感嘆が漏れた。

トップ選手と家族が同じ舞台上で競うことのできるスポーツは決して多くはない。一緒に競えば、子どもたちの間にも、うまくなることへの憧れやもっと早く走れるようになりたいというモチベーションという、スポーツ普及の上での重要な心理的要素が生まれるだろう。オリエンテーリングでも、もっとトップ選手の凄さをアピールし、活用してもいいのではないかと感じる瞬間だった。



家族組で最高得点を取ったファミリーと記念撮影。お父さんはさすがに「素人」ではなく、元筑波大の野外活動研究室出身。ただ者ではない雰囲気を感じていた。でも、こんな小さな子たち、よくがんばった。

神田発フォトログ東京 2月3日

スーパーシティー東京の中も、江戸時代以前から綿々と続く古都の趣を今に残す場所が随所にある。東京人ですらなじみのないそんなポイントをロゲイニングで回ろう、それがフォトログ東京である。

スタート地点は神田のそばや。オーナーの越田さんはもともとランニング

をしていたが、奥武蔵レクロゲに参加して、すっかりロゲイニングにはまった。競技のおもしろさはもちろんだが、それまでのっぺりとしたベッドタウンのようにしか見えなかった飯能が数時間CPを回ることですら豊かで親しみのある街になったのが印象的だったという。

生まれてからずっと住み続けている都心の魅力を伝えるために始めたのが、このフォトログ東京だ。過去には江戸の坂と下町、東京ご利益、うるとらとうきょうまうんとふじ、うたって歌碑めぐり、など、東京ならではの主題によるウィットに富むポイント設定が行われている。今回は、viewでも紹介された「地図ナイト」に触発された「とうきょう地形萌え」。そのテーマにも惹かれた参加した。



神田の蕎麦屋がスタート地点。いつもは客がそばをすすむ机の上に東京の地形図が広げられる

趣旨が東京の魅力再発見なので、運営も緩やかだ。三々五々集合し、十分作戦を立てられたらスタートしていく。公共交通は乗り放題。複雑な地下鉄網とJRから都電などの各種交通網を使いこなすのが鍵となるのは、僕、パートナーの田島とも田舎者で辛いところだ。

西は渋谷周辺の西郷山（西郷隆盛の居宅跡）から、東は伊能忠敬の銅像のある富岡八幡宮までポイントが広がっている。東京の地形と史跡を堪能できるポイントばかりだ。配点を見ると臨海部に高得点が並んでいる。隅田川による沖積平野の中にある洪積土にちなんで名付けられた浅草の待乳山聖天が最高得点の100点。最北端の王子の名主の滝も、縄文海進によってできた武蔵野台地の海蝕崖や、地形萌えの聖地

とも言える石神井川の河川争奪を見ることが出来る好ポイント。作戦よりも、地形萌えポイントについて心が動かされてしまう。

一方、西郷山に始まる目黒側流域から品川臨海部の合計得点も高い。そこからりんかい線で埋め立て地へ。最初に日比谷線に乗って中目黒まで行き、西郷山に登る、臨海部に渡ったら、お台場のポイントを取ったあと、大江戸線で門前仲町にいき、深川神社を攻めるといふラフなプランを立てた。

地図と地下鉄路線図を見て、一路岩本町駅へ。約5分で岩本町に到着。ところがそこにあるのは都営新宿線の駅のみ。岩本町の下で確かに路線は交差しているが、日比谷線には駅がなかったのだ。トホホな気分です山手線経由で作戦を変更する。

その後も、トラブルは続く。お台場に行きつづき。あれ、大江戸線が走っているのは月島で、お台場じゃない！ここもりんかい線から京葉線に乗って、越中島から走ることで乗り切る。臨海部に予想以上に時間がかかり、先のプランを修正していく。それに伴い同じポイントでも周り方に微調整が必要になる。このあたりのおもしろさは、自然の中のロゲイニングと変わらない。オリエンテーリングで鍛えたナビゲーション力を持ってすれば、里山だろうが、市街地だろうが、ナビゲーションの質に代わりはないのだ。

最終的には、かなり点があった戸山公園の箱根山も捨て、護国寺から有楽町線、JR総武線と乗り継ぎ、秋葉原から神田を目指した。時間が余りすぎるかと思っただが、結果的に飯田橋の乗り換えに意外と時間がかかったのだ、ちょうどいいタイミングだった。



王子の名主の滝公園。23区内とは思えない自然が広がる

結果は混合で4位。優勝は他のイベントでもおなじみの大澤・古茶ペアで100点以上の完敗だった。あまりに悔しくて、1時間以上かけて反省した。時間がかかって作戦ミスだと思っていた臨

海部でも時間あたりの点数は高かった。問題はそこにどう入るかだったのだろう。大澤・古茶ペアは、新宿線に乗ってすかさず富岡八幡宮を目指している。キロあたりのスピードも8分もかかっている。ここらにも課題があるかもしれない。

純粋なナビゲーションという点では亜流かもしれないが、東京再発見として一度は参加してみたいイベントだ。



江戸時代に歩測も使って正確な日本地図を作った伊能忠敬先生の銅像もチェックポイントの一つ

有度山ロゲイニング 1月27日

主催者/コースプランナーとして関わるこの大会における主題は、地域のフィールドの魅力を伝えること。これは30年以上にわたる僕のオリエンテーリング/トレラン/ロゲイニングイベント全ての原点とわかっていい。マロリー風と言えば、「そこにみんなに走ってほしい自然があるから」大会を開いているのだ。

2007年に有度山ロゲイニングをスタートさせた当初から、6回に渡って、有度山、そして清水へとトレインを少しずつ移動させながら大会を開催してきた。それは僕自身が清水区に強い愛着を持っているからでもあったし、ほとんどが平坦な静岡平野に強い魅力を感じなかったからだ。

ところが調べてみると、出てくる出てくる。今川氏や徳川氏の史跡はもちろんのこと、世界の首都とも言えるプラモデル、そして何より市街地の陰に

隠れ、あるいは目立たない様々な地形要素など、ポイントにしたい場所が満載なのだ。一例を挙げれば、賤機山の西には安倍川が流れている。賤機山の両側に等高線を引いてみると、その西と東では30m以上も標高がずれている。これは土砂の堆積作用の激しい安倍川によって賤機山の西には大量の土砂が堆積したのに、東側には賤機山丘陵の先端から回り込んだ形でしか土砂が堆積しなかったからだ。このため静岡平野の北を走る静清バイパスは賤機山をトンネルで東から西に通過する際、高架からトンネルに入って、少しづつ登り坂で高度を上げたにもかかわらず、賤機山トンネルの西ではまだ地面の下の掘り割りとなっている。隠れた歴史や地質の特徴を、自らの脚で体験するチャンスでもあるロゲイニングは、ナビゲーション・スポーツに接点のない人々に機会を提供する最適の活動だ。

今回の大会も、地元市民から、オリエンテーリング/ロゲイニングのトップ選手までが集まる賑やかな大会となった。男子の優勝は柳下に地元静岡のオリエンテーリングのプリンス小泉が組んで圧勝した。また2位には地元トレイルランナーの山下・大原ペアが入った。また女子ではランナー栗田と組んだ女王田島が優勝した。

24年度ナビゲーションゲームズシリーズの最終戦となった本大会では、シリーズの成績上位者に対する表彰も行われた。本年度の男子シリーズチャンピオンは田中公悟氏、女子のチャンピオンは伊藤奈緒氏となり、いずれもカシオ計算機が提供するプロトレックを獲得した。

なお、男子シニアでは2年連続で静岡の堀本洋氏がチャンピオンとなった。堀本氏は残念なことに奥様の堀本睦氏とともに、2月10日の西徳高の遭難事故で還らぬ人となった。末筆ながら、生前、ロゲイニングを愛し、各地の大会に参加した夫妻のご冥福をお祈りする。



シリーズ戦男子の表彰風景。左から優勝の田中さん、2位の宮崎さん、そしてシニア1位の堀本氏(故人)

(村越 真)